

平成20年12月11日

各 位

会 社 名 ファースト住建株式会社
代表者の役職名 代表取締役社長 中島 雄司
(コード番号：8917 大証第二部)
問い合わせ先 取締役管理部長 伊木 雅則
電 話 番 号 0 6 - 4 8 6 8 - 5 3 8 8

平成20年10月期 通期業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績の動向等を踏まえ、平成20年6月12日付「平成20年10月期中間期及び通期業績予想の修正に関するお知らせ」で公表いたしました平成20年10月期（平成19年11月1日～平成20年10月31日）の通期業績予想を下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

1 平成20年10月期通期業績予想数値の修正（平成19年11月1日～平成20年10月31日）

(単位：百万円，%)

	売 上 高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前 回 発 表 予 想 (A)	32,000	880	800	200	11円83銭
今 回 修 正 予 想 (B)	35,000	700	600	50	2円96銭
増 減 額 (B-A)	3,000	△ 180	△ 200	△ 150	△ 8円87銭
増 減 率 (%)	9.4	△ 20.5	△ 25.0	△ 75.0	△ 75.0
(ご参考) 前 年 実 績 (平成19年10月期)	46,497	3,490	3,419	2,022	119円69銭

2 通期業績予想の修正理由

①売上高、営業利益及び経常利益

当社を取り巻く不動産市場は、景気動向の減速による消費者マインドの低下が著しく、住宅の成約率の低下や販売価格の下落などの影響が生じており、過去に分譲用地の仕入を行った時点で予定していた販売価格に比べ、実際に販売した価格が下回る状況となっていることなどから、収益性の低下や不採算となる販売用不動産在庫が拡大する状況となっております。

このような環境の中で、当社におきましても収益性の低下や在庫水準の拡大などの影響があったため、財務体質の健全性を維持、向上するためにこうした不採算となっている在庫の削減に取り組んでまいりました。また、分譲用地の仕入れにおきましては、より厳密な市場調査にもとづく販売価格設定により仕入の可否判断を行い、販売価格の下落による収益性の低下に対応するべく努めてまいりました。しかしながら、こうした取り組みの成果により売上高は前回予想数値を上回る見込みとなりましたが、利益面におきましては、金融危機の深刻化や景気動向の一層の減速が現れるなどの要因もあり、不採算在庫の削減を進めたことによる収益性低下の影響が大きく、予想数値を下回る見込みとなりました。

②当期純利益

現在の市場動向を勘案して、棚卸資産の評価を行った結果、販売用不動産評価損として1億5百万円を追加的に計上することといたしました。

以 上

※ 上記に記載した予想数値は、発表日現在において入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、多分に不確定な要素を含んでおります。